

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

太平洋戦争によって大打撃を受けた日本経済は、1950年代後半以降の高度経済成長によって飛躍的な発展を遂げ、1970年代にはアメリカに次ぐ第二の経済大国に躍進しました。しかしながら、バブル崩壊後の長期にわたる低迷により、2000年代に入ってGDP規模で中国に追い抜かれ、雇用、財政、金融、エネルギー、社会保障そして地域経済などの重要な分野で構造的な問題を抱えています。

この授業では、金融機関の調査研究部門で日本経済の動向を長年担当してきた実務経験に基づき、日本経済の歴史的変遷から近年の各種の構造的問題に至るまでさまざまなテーマを取り上げ、それぞれのポイントをわかりやすく講義します。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション / この授業で学ぶこと
第 2 回	高度成長の時代
第 3 回	石油ショックとバブル
第 4 回	バブル崩壊後の長期停滞
第 5 回	雇用問題と所得格差
第 6 回	中小企業とベンチャー企業
第 7 回	産業構造の変遷
第 8 回	環境・エネルギー問題
第 9 回	金融システムの変遷
第 10 回	デフレと非伝統的金融政策
第 11 回	財政の持続可能性
第 12 回	地域経済と地域間格差
第 13 回	人口減少と社会保障
第 14 回	国際経済のなかの日本経済
第 15 回	日本経済の将来展望
第 16 回	期末試験

到達目標

- 戦後の日本経済が辿った軌跡を理解し、それぞれの時代のプラス面とマイナス面を指摘できる。
- 労働市場、中小企業、環境・エネルギー等の日本の構造的問題の本質を理解するとともに、それぞれの改善策を提言することができる。
- 少子高齢化が進む日本社会において、地域や社会保障制度にどのような問題が顕在化しつつあるのかを客観的に理解するとともに、どのような解決策が考えられるのかについて提言することができる。

履修上の注意

日本経済に関する問題は、日々我々が現実に関面している問題でもあります。各種の現実の問題に関心を払うことによって、日本経済のあるべき姿に関する問題意識を深める努力をしてください。

予習・復習

各回の講義で予定されている教科書の箇所を事前に読んで理解するとともに、各回の授業終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

学期末試験 70%、小テスト 15%、授業への参加姿勢（「質問・意見等」）15%

テキスト

次の書籍を教科書として使用する予定です。

- ・教科書名：『日本経済論（第2版）』
- ・著者名：宮川 努・細野 薫・細谷 圭・川上 淳之
- ・出版社名：中央経済社
- ・出版年（ISBN）：2021年3月（ISBN 978-4-502-37481-4）